

別表2

平成30年4月18日修正

公認心理師試験の受験資格取得要件に係る科目の読み替え対応表 大学院 教育学研究科【平成29年度以前入学生に適用】

| 大学における必要な科目 | | | B:本学授業科目 | 備考 |
|---------------|--------------------|----------------------|-----------------|--------------------|
| 大学院における必要な科目名 | 履修方法 | A:含まれる事項 | | |
| 1 | 保健医療分野に関する理論と支援の展開 | ① 保健医療分野に関わる公認心理師の実践 | 精神医学特論 | 11科目のうち いずれか1科目 |
| | | | 心身医学特論 | |
| | | | 発達障害医学特論Ⅰ | |
| | | | 発達障害医学特論Ⅱ | |
| | | | 発達障害生理・病理特論Ⅱ | |
| | | | ※1 学校臨床心理学特講 | |
| | | | ※5 学校保健特論Ⅱ | |
| | | | 発達障害医学特別演習Ⅱ | |
| | | | 発達障害生理・病理特別演習ⅡA | |
| | | | 発達障害生理・病理特別演習ⅡB | |
| | | | 発達障害医学特講 | |
| I 2 | 福祉分野に関する理論と支援の展開 | ① 福祉分野に関わる公認心理師の実践 | ※2 発達障害心理特論Ⅰ | 15科目のうち いずれか1科目 |
| | | | ※2 発達障害心理特論Ⅱ | |
| | | | 発達障害心理特講 | |
| | | | ※2 発達心理学特論Ⅰ | |
| | | | ※2 発達心理学特論 | |
| | | | ※2 言語発達心理学特講 | |
| | | | ※2 言語発達心理学特論 | |
| | | | ※2 認知発達論特論 | |
| | | | ※2 認知発達論特別演習 | |
| | | | ※3 情意発達の心理学特講 | |
| | | | ※2 幼児心理学特論 | |
| | | | ※2 発達障害教育方法特論 | |
| | | | ※2 発達心理学特別演習 | |
| | | | ※2 発達障害心理特別演習ⅠA | |
| | | | ※2 発達障害心理特別演習ⅠB | |

※印の科目について：一つの「大学院における必要な科目」に対応している開講科目を、他の「大学院における必要な科目」として読み替えることはできない。

※1の科目は「保健医療分野に関する理論と支援の展開」又は「教育分野に関する理論と支援の展開」のいずれかで読み替える。

※2の科目は「福祉分野に関する理論と支援の展開」又は「教育分野に関する理論と支援の展開」のいずれかで読み替える。

※3の科目は「福祉分野に関する理論と支援の展開」又は「家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践」のいずれかで読み替える。

※4の科目は「教育分野に関する理論と支援の展開」又は「家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践」のいずれかで読み替える。

※5の科目は「保健医療分野に関する理論と支援の展開」又は「心の健康教育に関する理論と実践」のいずれかで読み替える。

※6の科目は「教育分野に関する理論と支援の展開」又は「心理的アセスメントに関する理論と実践」のいずれかで読み替える。

公認心理師試験の受験資格取得要件に係る科目の読み替え対応表 大学院 教育学研究科【平成29年度以前入学生に適用】

| 大学における必要な科目 | | | B:本学授業科目 | 備考 |
|----------------------------|------------------------------|-----------------------|-------------|--------------------|
| 大学院における必要な科目名 | 履修方法 | A:含まれる事項 | | |
| I 3 教育分野に関する理論と支援の展開 | I (1~5)については、1を含む3科目以上を履修する。 | ① 教育分野に関わる公認心理師の実践 | 教育心理学特論 I | 30科目のうち いずれか1科目 |
| | | | 教育心理学特別演習 I | |
| 教育心理学特別演習 II | | | | |
| 教授・学習過程論特講 | | | | |
| 教授・学習過程論特講 I | | | | |
| 教授・学習過程論特講 II | | | | |
| ※1 学校臨床心理学特講 | | | | |
| 生徒指導・教育相談特別演習 | | | | |
| 生徒指導特講 | | | | |
| 学校教育実践総論IX | | | | |
| ※2 発達障害心理特論I | | | | |
| ※2 発達障害心理特論II | | | | |
| ※2 発達心理学特論 I | | | | |
| ※2 発達心理学特論 | | | | |
| ※2 言語発達心理学特講 | | | | |
| ※2 言語発達心理学特論 | | | | |
| ※2 認知発達論特論 | | | | |
| ※2 認知発達論特別演習 | | | | |
| ※2 幼児心理学特論 | | | | |
| ※2 発達障害教育方法特論 | | | | |
| ※2 発達心理学特別演習 | | | | |
| ※4 社会性の発達支援特講 | | | | |
| ※6 教育心理学特論 II | | | | |
| 学校教育実践総論VII | | | | |
| 学校教育実践総論 X | | | | |
| 学校教育実践総論XI | | | | |
| ※2 発達障害心理特別演習 I A | | | | |
| ※2 発達障害心理特別演習 I B | | | | |
| 発達障害生理・病理特論 I | | | | |
| 発達障害生理・病理特講 | | | | |
| 4 司法・犯罪分野に関する理論と支援の展開 | | ① 司法・犯罪分野に関わる公認心理師の実践 | | |
| 5 産業・労働分野に関する理論と支援の展開 | | ① 産業・労働分野に関わる公認心理師の実践 | | |

※印の科目について：一つの「大学院における必要な科目」に対応している開講科目を、他の「大学院における必要な科目」として読み替えることはできない。

- ※1の科目は「保健医療分野に関する理論と支援の展開」又は「教育分野に関する理論と支援の展開」のいずれかで読み替える。
- ※2の科目は「福祉分野に関する理論と支援の展開」又は「教育分野に関する理論と支援の展開」のいずれかで読み替える。
- ※3の科目は「福祉分野に関する理論と支援の展開」又は「家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践」のいずれかで読み替える。
- ※4の科目は「教育分野に関する理論と支援の展開」又は「家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践」のいずれかで読み替える。
- ※5の科目は「保健医療分野に関する理論と支援の展開」又は「心の健康教育に関する理論と実践」のいずれかで読み替える。
- ※6の科目は「教育分野に関する理論と支援の展開」又は「心理的アセスメントに関する理論と実践」のいずれかで読み替える。

公認心理師試験の受験資格取得要件に係る科目の読み替え対応表 大学院 教育学研究科【平成29年度以前入学生に適用】

| 大学における必要な科目 | | | B: 本学授業科目 | 備考 | |
|---------------|------|-------------------------------|--|---|---------------|
| 大学院における必要な科目名 | 履修方法 | A: 含まれる事項 | | | |
| II | 6 | 心理的アセスメントに関する理論と実践 | ① 公認心理師の実践における心理的アセスメントに関する理論と実践の意義 ② 心理的アセスメントに関する理論と方法 ③ 心理に関する相談、助言、指導等への上記①及び②の応用 | 臨床心理査定演習 I 教育心理査定実習 ※6 教育心理学特論 II | 3科目のうちいずれか1科目 |
| | 7 | 心理支援に関する理論と実践 | ① 力動論に基づく心理療法の理論と方法と実践 ② 行動論・認知論に基づく心理療法の理論と方法 ③ その他の心理療法の理論と方法 ④ 心理に関する相談、助言、指導等への上記①から③までの応用 ⑤ 心理に関する支援を要する者の特性や状況に応じた適切な支援方法の選択・調整 | 臨床心理面接特論 臨床心理面接特論 I 臨床心理面接特論 II 教育臨床心理学特論 教育臨床心理学特論 I 教育臨床心理学特論 II 教育臨床心理学特論 III 心理療法特論 学校カウンセリング特講 | 9科目のうちいずれか1科目 |
| | 8 | 家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践 | ① 家族関係等集団の関係性に焦点を当てた心理支援社会における心理支援の理論と方法 ② 地域社会や集団・組織に働きかける心理学的援助に関する理論と方法 ③ 心理に関する相談、助言、指導等への上記①及び②の応用 | 家族心理学特論 コミュニティ・アプローチ特論 教育臨床心理学特別演習 教育社会心理学特論 教育社会心理学特論 I 教育社会心理学特論 II ※3 情意発達の心理学特論 ※4 社会性の発達支援特論 | 8科目のうちいずれか1科目 |
| | 9 | 心の健康教育に関する理論と実践 | ① 心の健康教育に関する理論 ② 心の健康教育に関する実践 | ※5 学校保健特論 II 進路指導特論 生徒指導・学校教育相談特論 | 3科目のうちいずれか1科目 |
| III | 10 | 心理実践実習 (450時間以上) | 知識及び技能の基本的な水準の修得を目的とし、次に掲げる事項について、保健医療、福祉、教育、司法・犯罪、産業・労働等の分野の施設において実習を行うこと。 (ア) 心理に関する支援を要する者等に関する以下の知識及び技能の修得 (1) コミュニケーション (2) 心理検査 (3) 心理面接 (4) 地域支援等 (イ) 心理に関する支援を要する者等の理解とニーズの把握及び支援計画の作成 (ウ) 心理に関する支援を要する者へのチームアプローチ (エ) 多職種連携及び地域連携 | 臨床心理基礎実習 臨床心理実習 病院臨床実習 学校臨床実習 学校カウンセリング実習 学校心理学・カウンセリング実習 発達障害臨床実習 I A 発達障害臨床実習 I B | 8科目のうちいずれか1科目 |

※印の科目について：一つの「大学院における必要な科目」に対応している開講科目を、他の「大学院における必要な科目」として読み替えることはできない。

※1の科目は「保健医療分野に関する理論と支援の展開」又は「教育分野に関する理論と支援の展開」のいずれかで読み替える。

※2の科目は「福祉分野に関する理論と支援の展開」又は「教育分野に関する理論と支援の展開」のいずれかで読み替える。

※3の科目は「福祉分野に関する理論と支援の展開」又は「家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践」のいずれかで読み替える。

※4の科目は「教育分野に関する理論と支援の展開」又は「家族関係・集団・地域社会における心理支援に関する理論と実践」のいずれかで読み替える。

※5の科目は「保健医療分野に関する理論と支援の展開」又は「心の健康教育に関する理論と実践」のいずれかで読み替える。

※6の科目は「教育分野に関する理論と支援の展開」又は「心理的アセスメントに関する理論と実践」のいずれかで読み替える。